

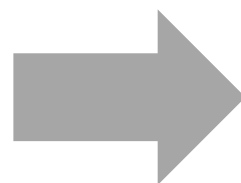
# 津波対策 – 原子炉建屋等への外部からの浸水に関する評価の詳細 –



ワーキングの詳細  
はこちらから

## 論点No.35

屋外タンクの損傷や海水系の配管の損傷に伴う津波の流入などにより、防潮堤内で浸水が発生した場合の原子炉建屋などへの影響はどのように確認しているのか。



第19回ワーキング  
(2021.9.24)、  
第27回ワーキング  
(2024.3.18) で議論

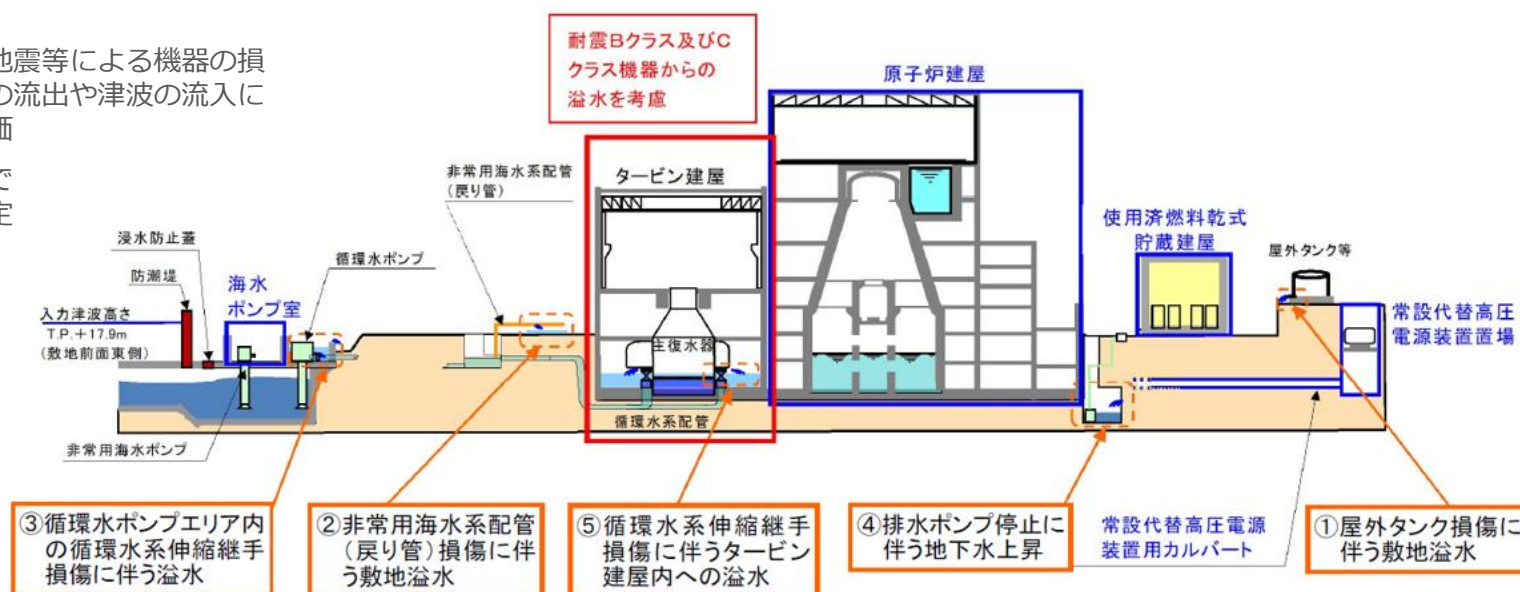
## ワーキングチーム検証結果

最大の屋外タンクからの保有水の流出や配管損傷箇所からの津波の流入について、浸水深さ等の影響を評価した結果、**浸水深さは原子炉建屋や使用済燃料乾式貯蔵建屋の床面高さを超えず、影響はないと評価していることなどを確認。**

## ワーキングチーム検証結果 (抜粋)

### ○津波の内郭防護と溢水影響評価

- 防潮堤内側の防護（内郭防護）として、地震等による機器の損傷などを想定し、損傷箇所からの保有水の流出や津波の流入による溢水（水が溢れること）の影響を評価
- 屋外での溢水や、津波の流入による屋内での溢水として、右図の5つのケースを想定
- それぞれのケースにおいて、溢水量を評価し、原子炉建屋や使用済燃料乾式貯蔵建屋などの防護対象区画への影響を確認
- 屋外での溢水のうち、最も溢水量の多い右図①のケース（約4,500m<sup>3</sup>）においても、**浸水深さはそれぞれの建屋の床面高さを超えず、影響はない。**
- 屋内への津波の流入を想定した⑤の評価においても、流入量はタービン建屋内に収まる量のため、原子炉建屋等への影響はない。



防潮堤内における溢水影響評価の概要